


## 政経学部の 入学前教育と導入教育



政経学部  
教務主任 平石正美


## 政経学部の入学前教育

- AO入試や推薦入試の合格者に対して、小論文の提出をさせるようにした。
- 2月～3月にかけて3～4回の小論文の提出をさせ、添削をして返すという指導をしている(業者を通じて行っている)。
- 最初の頃は、教員がテキストを選択して添削指導を行っていたが、入試時期や添削回数が制限されるため、業者に委託するようになった。
- 業者の方から、添削の内容を教員が直接電話をして伝えてほしいと言われたが、入学前の準備等の忙しさや、会ったことのない新入生に話をするには一定の限界があった。
- 現在、どのような形の入学前教育が良いか検討中。

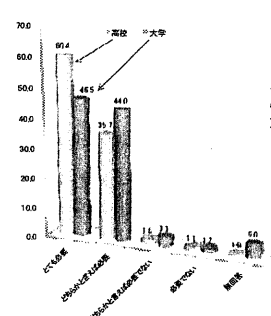


## 入学前教育の課題

- ◆ 大学の入試(AO入試・推薦入試)による学生の育田刈りの定着  
学生にとっての多様な入試制度の検討  
入試機会や方法の多様化  
詰め込み型教育への批判と対応
- ◆ 日本の受験生の学力低下が基本的な課題であり、輪をかけて大学生の学力低下につながっている。学力や社会人基礎力の問題にもつながる。
- ◆ 入学前教育は、高校にも、大学にも双方に責任があるが、一方的な要求ができず、両すみ状態にある。
- ◆ 入学前教育で、できることには限界がある。




## アンケート調査：入学前教育の必要性

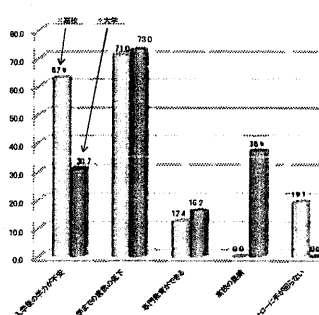


入学前教育は「必要」であるとの認識は、高校・大学ともに高い。

出典：(株)ライオンズアカデミー 調査センター  
 実施期間 2007年3月28日～4月1日  
 アンケート数 高校146名 大学241名(AO受験者)  
<http://www.sasaku.com/od/faculty/0705.pdf>




## なぜ入学前教育が必要か

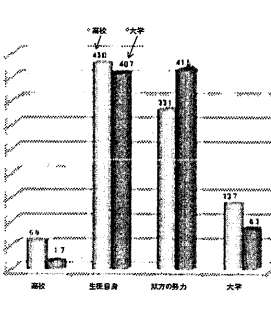


大学・高校とも「志欲の低下」が一番である。高校では、次いで「学力不安」が高い。

出典：(株)ライオンズアカデミー 調査センター  
 実施期間 2007年3月28日～4月1日  
 アンケート数 高校146名 大学241名(AO受験者)  
<http://www.sasaku.com/od/faculty/0705.pdf>




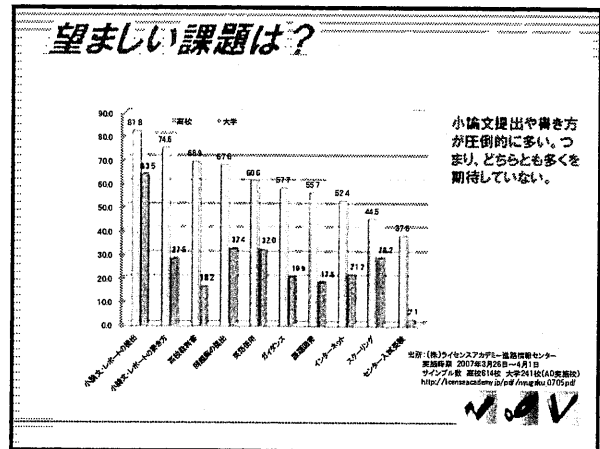
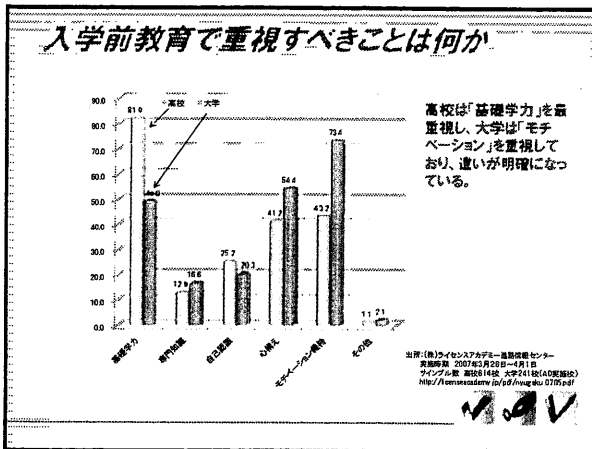
## 入学まで意欲維持に責任を持つべき主体



意欲は「生徒自身」であるとも双方とも考えているが、その責任は教育主体の「双方の努力」と思っている。大学の方が「双方の努力」として、高校にも協力を願いたいことがわかる。

出典：(株)ライオンズアカデミー 調査センター  
 実施期間 2007年3月28日～4月1日  
 アンケート数 高校146名 大学241名(AO受験者)  
<http://www.sasaku.com/od/faculty/0705.pdf>





### 高校サイドの意見と課題

〈入学前教育〉

- すべての家庭にパソコンがあるわけではないので、学校のPCを使うのは困る。
- 普通高校と専門高校では習熟度が違うので、別メニューにしてほしい。
- 高校の現場でも多忙だが、ともに間われるような入学前教育が望ましい。
- 入学前教育の講評まで伝えてくれると大学の熱意が伝わる。
- 大学での「学び」の意欲がわき、展望がもてるようなものを考えてほしい。
- 大学ごとにバラバラなやり方は、高校生と保護者に混乱や不信感を招く。
- 大学入試後について行けるように、センター試験受験をAO入試後の必須条件として出してほしい。

### 入学前教育の新聞記事

入学前教育大学の使命に  
推薦入試や面接・小論文中心のAO入試の導入を進める大学では、「入学前教育」に力を入れることが増えている。大学入試代を減らし、入学準備のために受験方法が多様化し、入試前に一般入試以上の入学準備、二学期の科目を履修し上げることも大学の「使命」になってきているようだ。(森邦彦)

ネットで高校数学履修 合格後にセンター受験  
金沢工業大(石川県)は2008年度から、AOや推薦での入学希望者を対象に、インターネットを使って高校数学を履修する「入学前オンライン」制度を始めた。入学前に必須となる部分・自分の基礎を学ぶ。前大が5年前から行っていた入学前教育としての通信履修を発展させたもので、大学生も利用するオンライン上の参考書も利用できる。工学基礎教育センターの若木真比呂教授(64)は「履修点や、進捗率の点をネット上で採ることができ、より深い学習につながるはず」と説明する。

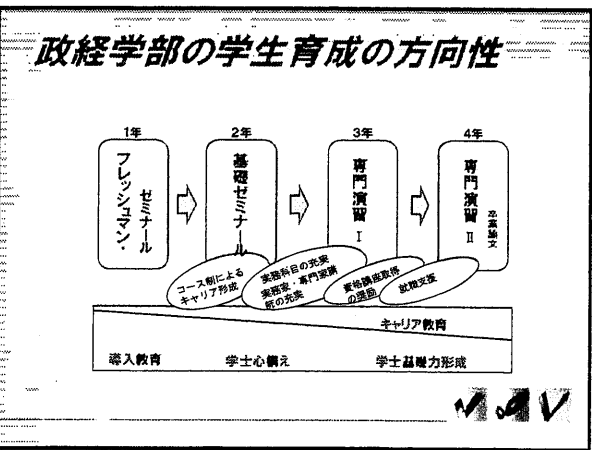
08年度入試からAO入試を導入した金沢大(金沢市)は、数学、英語、物理の3教科で入学前教育の予備校を育成。さらに進歩を遂げる。すでに合格が決まっている、大学入試センター試験で英・数・理の3教科5科目を受験し、結果報告を求めている。入試担当の前川幸次教授(55)は「勉強の習慣を定着させたいことが目的で、一般入試者の学力差を縮める狙いになる」と話す。

金沢薬科大(石川県)では、08年度のAO入試の合格者から、夏休みに入るクール(本館)夏高の通信履修で入学し、履修を行い、08年度からは、履修率(合格者)がグループ会社を通じて実施しているインターネット上の通信教育で学べるようにした。

代々木ゼミナール教育総合研究所の安藤英・本部長(54)は「AO入試による合格者が増えれば、各大学は入学・教育でも競うことになる」と話し、入学前教育も大学が提供する教育メニューとしてとらえられているという。

(2008年1月17日 読売新聞)

⇒ 現実には、いかに良い業者を選ぶか!!

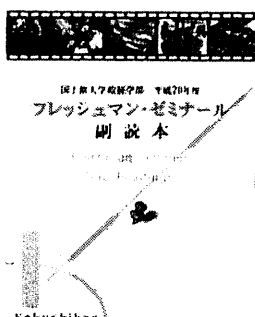


### 学士課程教育への第1歩

#### フレッシュマン・ゼミナール

- 政経学部では、学生の低学力化や早い時期からのキャリア形成のために、導入教育としてフレッシュマンゼミナールを20年度から、専任教員が担当。
- 教材としての副読本は、1年前に各章ごとにチームを作り、執筆作成した。
- 導入教育としての学生の心構え、学習方法、進路や就職への取り組み方など、6章構成。

### 副読本の表紙

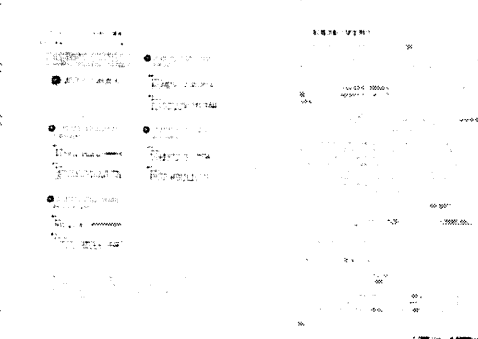


主な内容

1. 健やかな学生生活
2. 人生とライフプラン
3. データの収集・利用
4. 就職活動の心構えなど

Kokushikan

### 副読本の内容例



### フレッシュマン・ゼミナールの様子

- ◆少人数編成
- ◆2限or6限設置
- ◆必修化
- ◆専任教員担当



### 専任教員による導入ゼミの意義

- ◆1～2年生を中心に教える総合教育担当教員と3～4年生を中心の専門教員の意識と学生認識の差が埋まってきた。
- ◆今までの学生への接し方では、うまくいかないことを早く認識できるようになった。
- ◆「ゆとり教育世代」の学生への教え方に対する共通認識や問題意識が共有されるようになった。
- ◆教授会や教授会後のFD集会で、教え方や教材の工夫などを話し合うようになり、関心が深まってきた。

### 導入教育における知見

(フレッシュマン・ゼミナール)

- ◆授業に集中できず、おしゃべりする学生が増加
- ◆学生のタイプが三層化(やる気がある学生、中間に位置する学生、無関心な学生)
- ◆通常の講義型の授業では飽きてしまう

↓ 教員の工夫が必要

- ◆講師の工夫や課外授業(街並み研究探索)など
- ◆参加型授業への転換(グループワーク、調査研究発表)
- ◆テーマごとにグループの席替え(おしゃべりがなくなる)

### 教員による様々な工夫

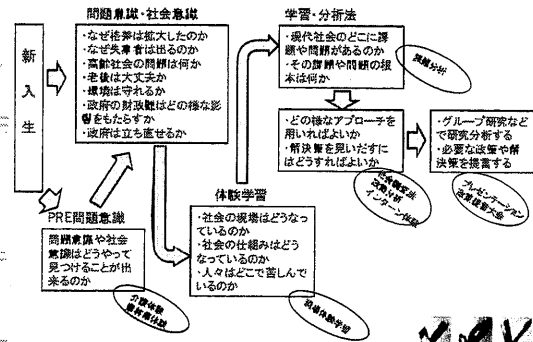
- ◆学内施設や環境の活用
- ◆社会の話題の活用
- ◆DVDなどの動画の活用
- ◆授業中に公然と話をさせる工夫
- ◆社会貢献や参加をさせる工夫

## 入学前教育及び導入教育の要点

- 新入生のころにどれだけ入っていくか。  
→ 個人的に話を聞いたり、親身に相談にのってやると意欲的になる。学生の心理面の研究が必要。
- 入学前教育や導入教育から、出口までどのようにつなげていけるか。  
→ カリキュラムマップなどは普通にできる学生向けであり、必要なのはこれより下の学生向けの教育指導方法
- 意欲や生き甲斐を再発見させる仕掛けを大学教育の中でどう作っていくか。  
→ 世の中から必要とされている体験型学習を開発していく必要がある。

NOVA

## 体験型・参加型教育の検討



NOVA